

謝名堂川水系河川整備基本方針

平成 25 年 5 月

沖 縄 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域および河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	6
 (参考図)	
謝名堂川水系水系図	7

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域および河川の概要

謝名堂川^{じゃなどう}は、沖縄本島那覇市の西約 90km の久米島久米島町の東部に位置し、その源をフサキナ岳(標高 219.9m)に発し、タイ原池^{ぼる}を流下し、比嘉・謝名堂^{ひが じゃなどう}の集落を貫流して東シナ海に注ぐ幹線流路延長 2.85km、流域面積 3.0km² の二級河川である。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、降雨量は梅雨期と台風期に多く、年平均降水量は約 2,200mm、年平均気温は約 23℃である。

謝名堂川流域は、久米島の中央部から東部に位置し、上流域は山林で久米島県立自然公園の特別地域に指定されており、優れた自然環境が保たれている。また、タイ原池^{ぼる}より下流はサトウキビ畑が広がり、中下流域に位置する謝名堂地区^{じゃなどう}や比嘉地区^{ひが}は、町役場、診療所、郵便局、小中学校、リゾート施設などの行政・福祉・文教・商業施設が集中する町の中心的な集落である。

流域の地形は、上流はフサキナ岳からの丘陵地となっていて、下流はイーフビーチやハテの浜などの美しい海浜のある海岸低地や砂丘となっている。

流域の地質は、上流の山地部では大部分が火成岩により構成されており、島中央部の宇江城^{う え ぐすく}安山岩類と山城^{やまぐすく}凝灰岩類に区分される。島東部の比嘉^{ひが}、謝名堂^{じゃなどう}一帯には広い沖積平野があり、海岸付近では砂丘・海浜砂層により覆われている。この砂丘・海浜砂層は、島の海岸線に沿って分布し、石灰質の砂からなるところが多く、沖積層を覆って現在の海岸線に沿って数m～数十mの高さで堆積している。

久米島の溪流・河川については、キクザトサワヘビ(日本固有種)、リュウキュウヤマガメ(日本固有種)、ヤマシナトカゲモドキ(主として日本固有)の生息地として、「日本の重要湿地 500」に選定されている。

源流からタイ原池^{ぼる}までの上流部は、自然河岸のまま、イネ科のパラグラス、ナピアグラス等の湿生植物が帯状に見られ、甲殻類のアラモトサワガニやクメジマミナミサワガニ等の水生生物が生息している。また、タイ原池では水上を生活の場とする鳥類のカイツブリが確認されている。

タイ原池^{ぼる}から中之橋^{なかのはし}を経てタンマグシカー橋までの中流部は、畑地^{じゃなどう}や謝名堂集落が広がり、河川の両岸はブロック積み護岸で、河床は砂礫からなり、水際にはガマ科のヒメガマやイネ科のパラグラス、ナピアグラス等の湿生植物が帯状に群生し、その中には昆虫のヒメミズカマキリが生息している。また、川の流れのゆるやかな淵には甲殻類のコンジテンナガエビ、モクズガニや魚類のアヤシノボリ等が生息

しており、そこは、鳥類のカワセミのエサ場になっている。

タンマグシカー橋から河口までの下流部は、畑地が広がり、河川の両側はブロック積み護岸で、感潮域となっており、テラピアやカワアナゴ等の魚類が見られる。また、水際にはイネ科のパラグラスやナピアグラス等の湿生植物が帯状に分布している。また、河口部においては、イネ科のソナレシバの海浜植生が所々に見られ、オオハマボウ、アダン等の低木林が帯状に群生し、甲殻類のモクズガニやイワガニ等が生息し、そこは鳥類のシロチドリやカラシラサギ等のエサ場や休息地となっている。

謝名堂川は本土復帰前の琉球政府時代にかんがい排水路として、間知ブロック積み護岸で整備された。しかし、これまで治水事業が行われておらず、河道の流下能力が小さいため、近年において、台風や豪雨により中流域の町役場や比嘉・謝名堂地区の住宅地及び畑地などで浸水被害が度々発生しており、特に、比嘉・謝名堂地区にて、平成6年5月の集中豪雨では床上浸水8棟、床下浸水33棟、平成13年9月の台風16号では床上浸水3棟、床下浸水12棟の洪水被害が生じている。

河川水の利用については、タイ原池の下流には約59haの畑地があり、農業用水としてタイ原池から直接取水してかんがいに利用されている。なお、謝名堂川の流域面積は約3.0km²と小さく、また、降水量は季節によって大きく変化するため、河川の流況は安定せず、平時の流量は小さい河川環境となっているが、それに伴う問題は発生していない。

河川の水質については、水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定はされていない。生活環境の保全に関する項目として平成19年度の水質（BOD75%値）調査結果は、中之橋地点で0.8mg/L、上流部のタイ原池流入地点で0.7mg/Lと水質汚濁に係る環境基準に当てはめた場合、A類型（BOD2mg/L以下）と概ね良好な水質を保持している。

河川の利用については、上流域のタイ原池の東川域の登武那覇公園では観光客を含む地域住民が眺望を行う場として利用され、川沿いでは学校関係者による植樹活動が見られるなど、地域住民の散策の場や憩いの場として利用されている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

謝名堂川水系の課題としては、河川の流下能力不足による洪水被害の防止、又は軽減と良好な河川環境の整備や保全等が挙げられる。また、地域住民からは、洪水被害に対する不安や河川環境の保全等の意見が挙がっている。

これらを踏まえつつ、謝名堂川水系の河川整備にあたり、

- ①「水害を防御する役割」
- ②「人々に親しまれる川づくり」
- ③「自然や生態系の保全」

が求められている。

これらの役割を達成するため、「洪水の災害に対し安全で、人々に潤いと親しみを与え、豊かな自然がいきづく川づくり」を基本理念として、河川整備を進めていくものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、謝名堂川は台風の常襲地帯で洪水が多発していることから、地域住民が安心して暮らせるような「水害に強い川づくり」を目指すものとする。このため、想定氾濫区域内の資産規模や過去の災害実績等を考慮し、年超過確率 1/30 の規模の洪水を安全に流下させるとともに台風等による高潮にも対処することを目標とし、河道の整備を行う。

これらに加えて、計画規模を上回る洪水に対しては発生した被害に応じて必要な対策を講じるほか、できるだけ被害を軽減するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備等、総合的な洪水被害軽減対策を関係機関や地域住民と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、地域住民及び関係機関等との協力のもと、生物の生息・生育環境に配慮するとともに、水質の維持に取り組む、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、河川及び流域の特性を十分踏まえ、治水、利水との整合を図りつつ、河川環境として、河川が本来有している動植物の生息・生育環境やその河川と人との関わりに配慮した整備と保全に努める。

そこで、謝名堂川流域の亜熱帯海洋性気候や島嶼等の地理的条件から希少な水生動物の生息が確認されていることから、「自然に配慮した川づくり」を目指すものとする。このため、赤土流出防止対策及び水源地涵養等の総合的な環境保全対策を関係機関や地域との連携により推進し、河川水質の保持や動植物の保護に努めるとともに、河床を掘削する場合には平坦な河床にせず水際多様性を確保するなど、河川の良好な自然環境の保全を図る。

特に中流部付近は、住宅地を流れる貴重な水辺空間であり、人と河川との良好なふれあいの場の確保のため「人々に親しまれる川づくり」に努める。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮できるよう適切に対策を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、防災教育、河川利用に関する安全教育、環境教育等の充実を図るとともに、住民参加による河川清掃、河川愛護活動等を積極的に推進・支援し「みんなで協力しあう川づくり」を目指す。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項

謝名堂川の基本高水のピーク流量は、基準地点^{なかのほし}中之橋において $43\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道に配分する。

基本高水ピーク流量等の一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m^3/s)	洪水調節施設等による調節流量 (m^3/s)	河道への配分流量 (m^3/s)
謝名堂川	中之橋	43	—	43

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

謝名堂川における計画高水流量は、基準地点である^{なかのほし}中之橋において $43\text{m}^3/\text{s}$ とする。



謝名堂川 計画高水流量配分図 (単位： m^3/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

謝名堂川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離	計画高水位 N. P.	川幅	摘 要
謝名堂川	中之橋	1.06 km	+2.78 m	9 m	基準地点

※N. P. は那覇港中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

謝名堂川の流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては流量観測、動植物等の調査やデータの蓄積に努め今後さらに検討を行う。

(参考図) 謝名堂川水系図

